

意向調査（意識調査・ヒアリング）【中間報告】

I 意識調査（アンケート調査）

<調査概要>

○目的

町民及び事業者への意識調査を実施して、本町の人口減少要因を明確にし、課題解決に向けた施策の方向性を検討するとともに、長期的な将来人口推計を行いながら、将来の展望や基本目標を示す基礎資料として活用することを目的とした。

○対象者

対象	目的／内容	対象属性
子育て層	○現在の子育て環境・施策の評価 ○出産・育児に対する意識の把握 ○育児・教育支援に対するニーズの把握	中学生以下の子どもを持つ親から無作為に抽出
若年層	○進路(就業・就学)の状況 ○居住地選択の要因の把握 ○結婚・出産について ○大洗町への定住意向の把握	17歳から25歳までの層から無作為に抽出
事業所・事業主	○大洗町内の雇用・就業環境に対する意識の把握 ○事業の現状及び継続意向の把握	法人市町村民税対象事業所(事業開始届等から無作為に抽出)

○調査時期

平成27年7月10日～平成27年7月24日

○調査方法

郵送による配布・回収

○回収数・回収率

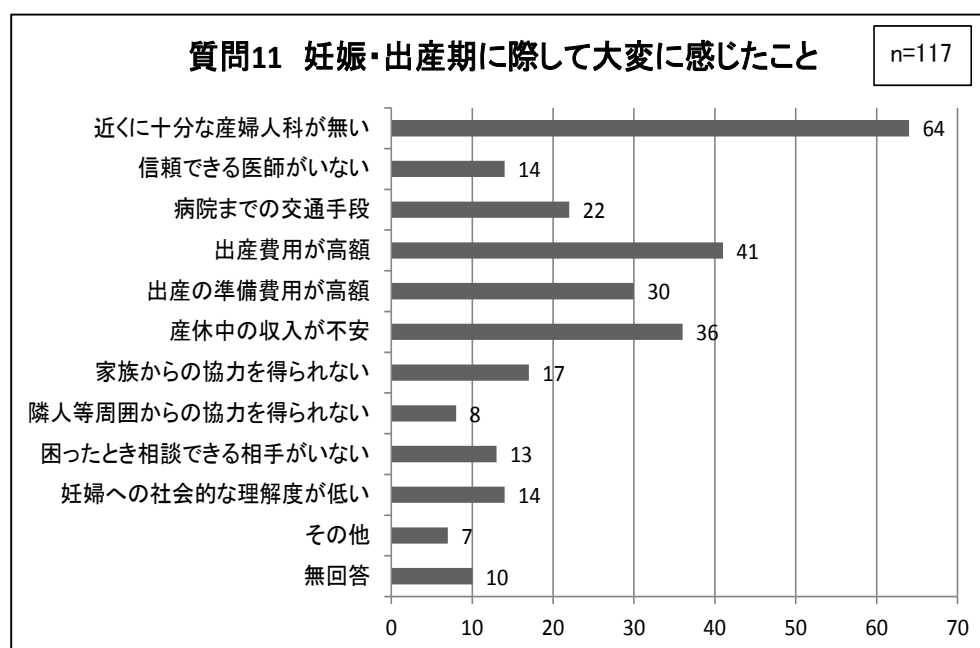
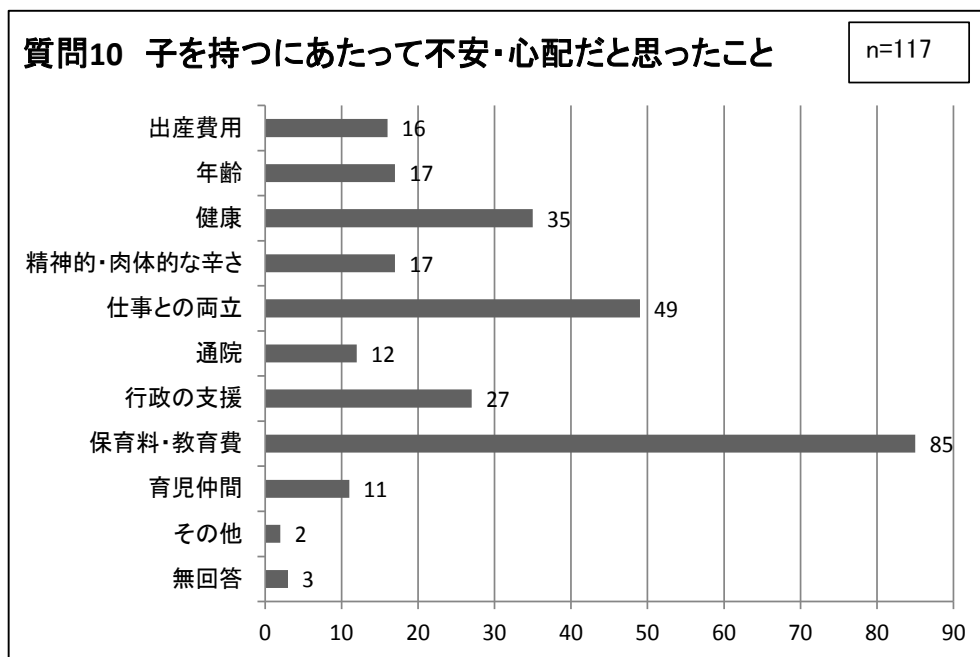
	配布数	回収数	回収率
子育て層	770	117	15.2%
若年層	1,020	111	10.9%
事業所・事業主	230	60	26.1%

(1) 子育て層

① 出産時の状況

○子を持つにあたっての不安・心配事は、「保育料・教育費」が最も多い。次いで、「仕事との両立」となっており、経済面と仕事面についての不安があるといえる。

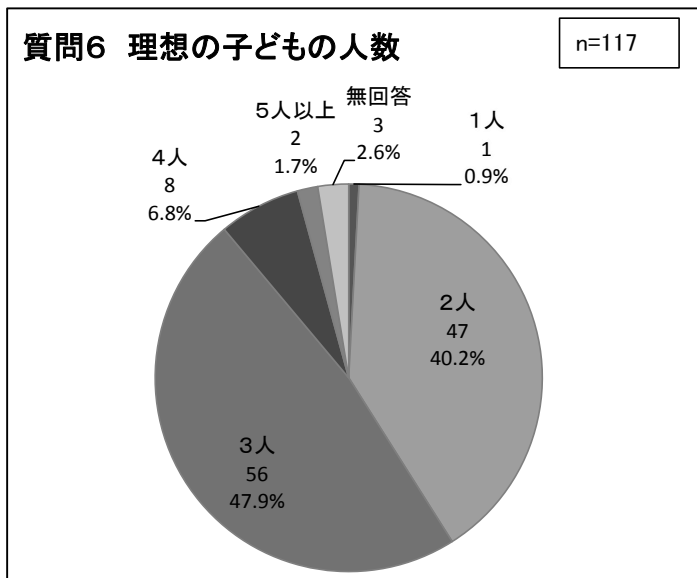
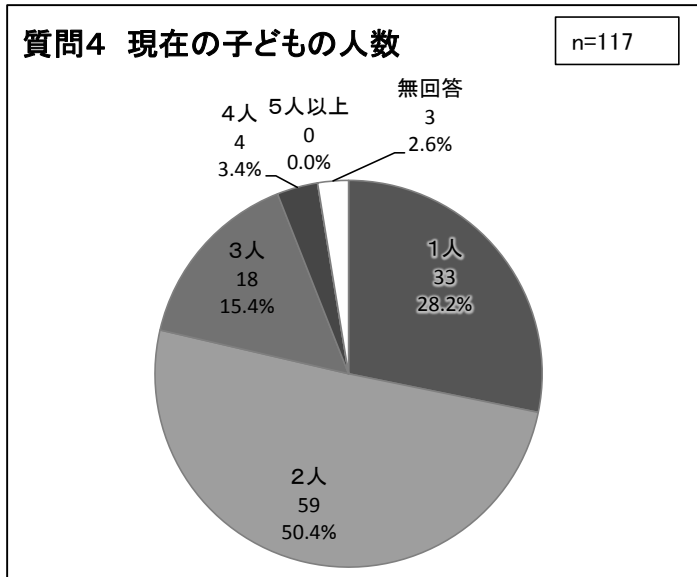
○実際に妊娠・出産を経験した方の意見としては、「近くに産婦人科がないこと」の他、「出産費用」、「出産準備費用」、「産休中の収入」等、経済面の意見が多い。



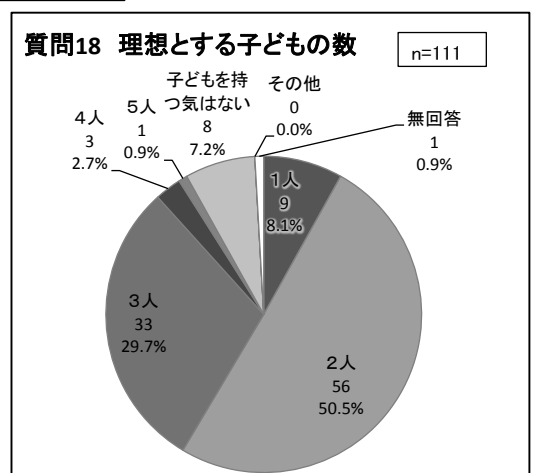
②子どもについての意識

○子どもの人数については、現在の子ども的人数は「2人」が最も多く、平均では1.9人となっている。一方、理想の子ども的人数は「3人」が最も多く、平均では2.7人であり、現実と理想のギャップが存在する。

○また、理想の子ども的人数について、子どもを持たない若年層と子どもを持つ層を比較すると、子どもを持つ層の方が多くなっている。



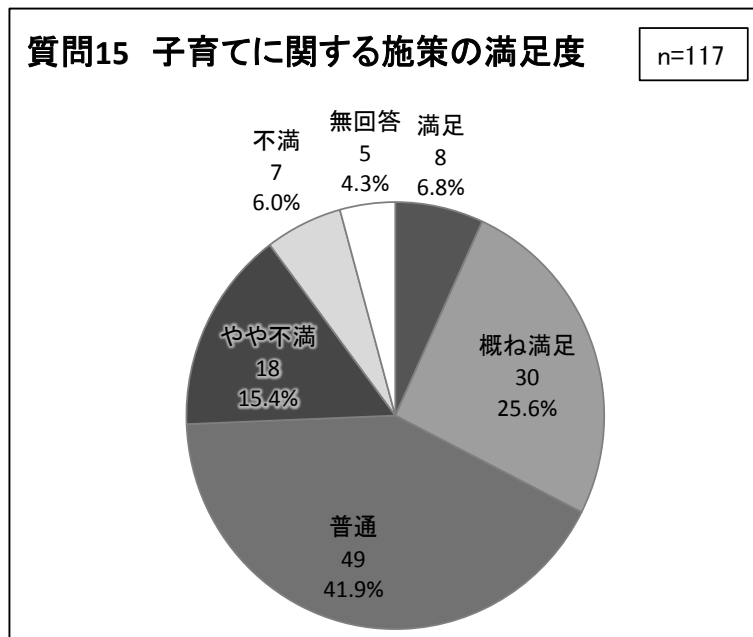
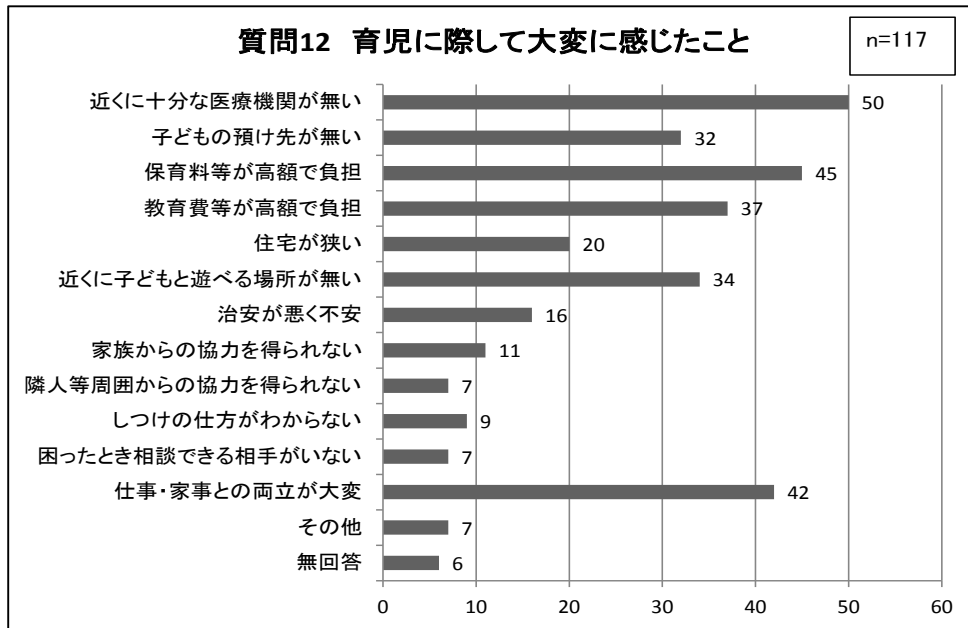
【参考】若年層の回答



③育児・教育に関する意識

○育児経験の「大変に感じたこと」についてみると、「近くに十分な医療機関がない」という医療環境に関する意見の他、「保育料」や「教育費」に対する負担、「仕事・家事との両立」等についての意見が多い。

○子育てに関する施策の満足度については、「普通」が最も多いが、「満足」、「概ね満足」の合計は「不満」、「やや不満」の合計より若干多く、現状の施策に対し大きな不満は見られていないといえる。

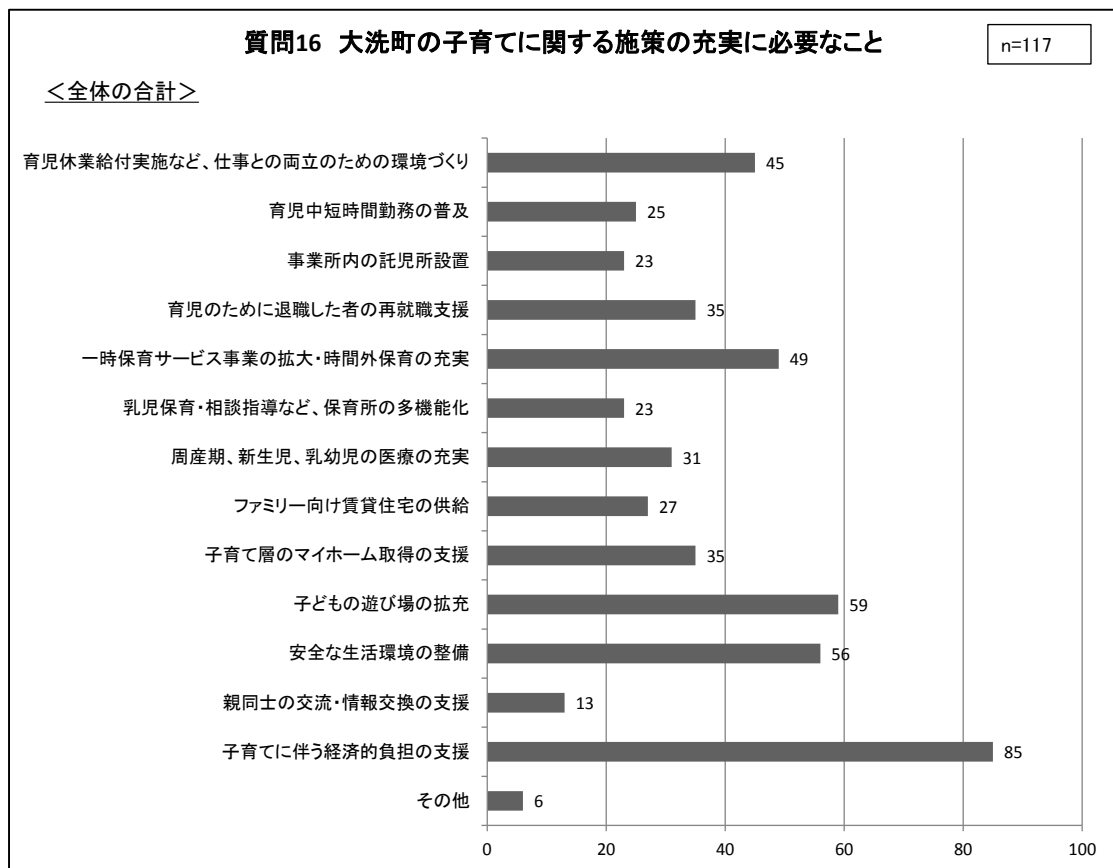


④子育てに関する施策の充実に必要なこと

○子育て支援施策について充実して欲しい内容は、「経済的負担」に対する支援が最も多くなっている。

○保育支援の面においては、「一時保育サービス事業の拡大・時間外保育の充実」など、現在の保育時間や制度の充実を求める意見が多い。

○また、「子どもの遊び場の拡充」、「安全な生活環境の整備」など、子どもを取り巻く環境の整備についての意見も多い。なお、「子どもの遊び場の拡充」については、グループインタビューにおいても意見が出されている。

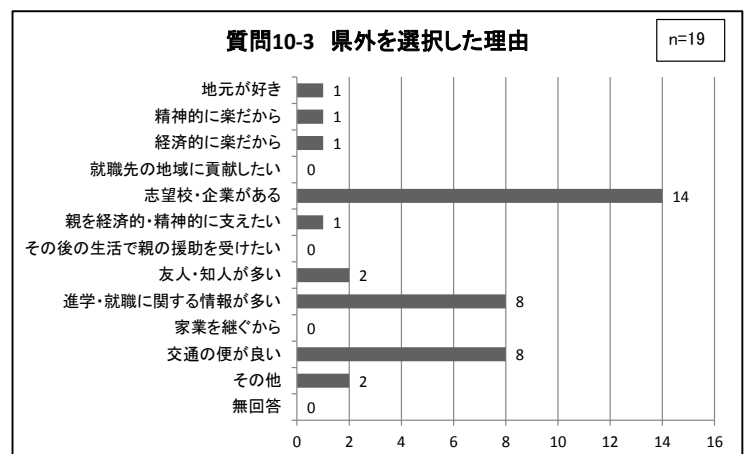
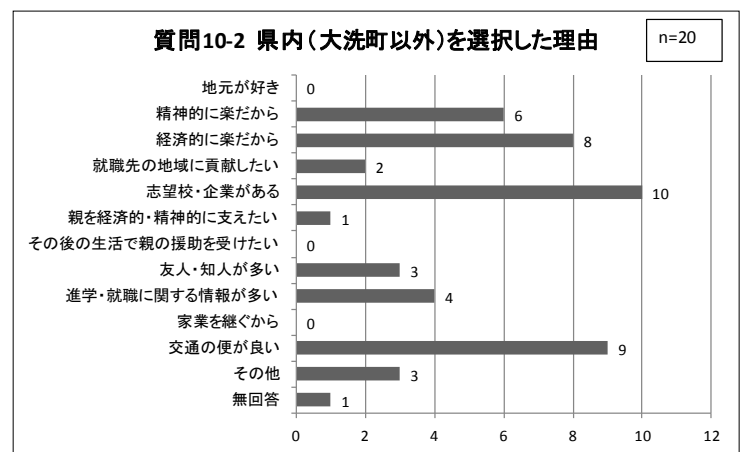
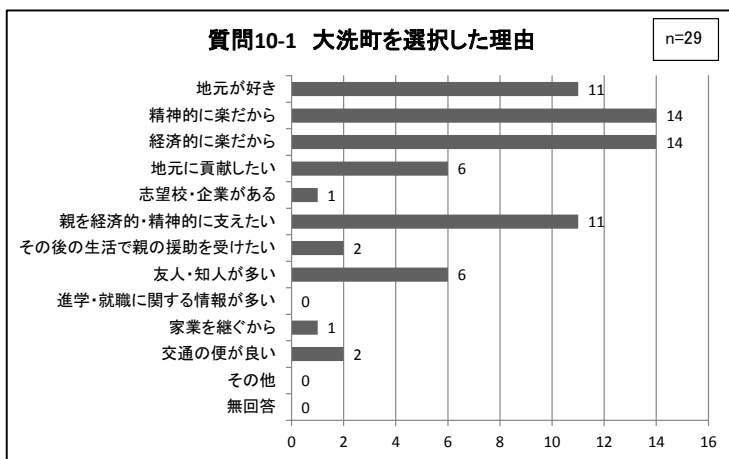
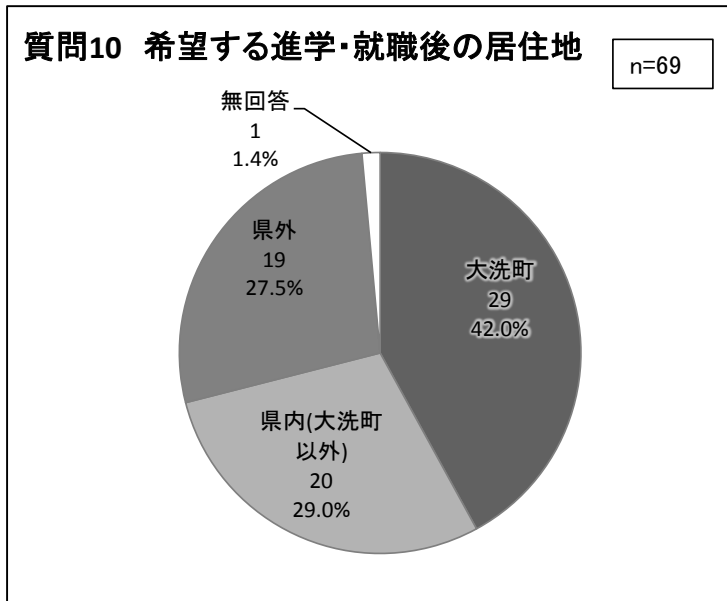


(2) 若年層

①進学・就職後の居住地

○進学・就職後の居住地として「大洗町」を選択した割合は約4割であり、進学・就職が大洗町外に転出する機会となっていることが分かる。

○進学・就職後に「町外」を居住地として選択した理由については、「志望校・企業がある」、「進学・就職に関する情報が多い」等、進学・就職に関する動機が多い。



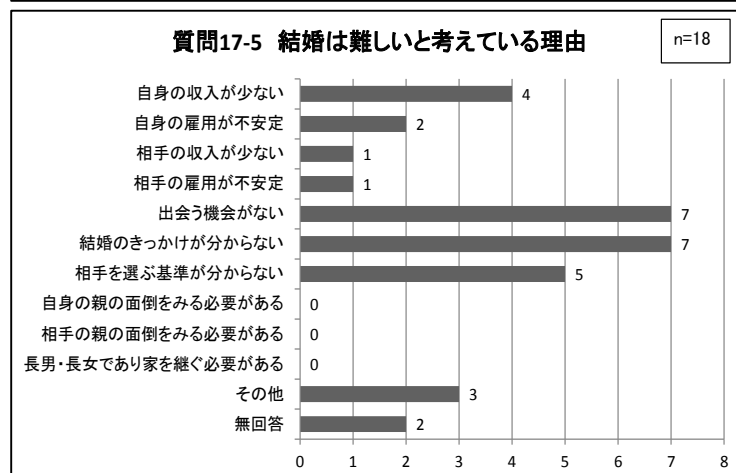
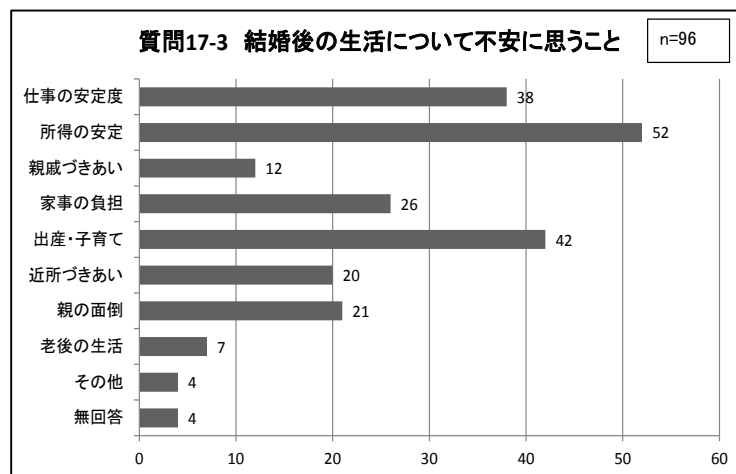
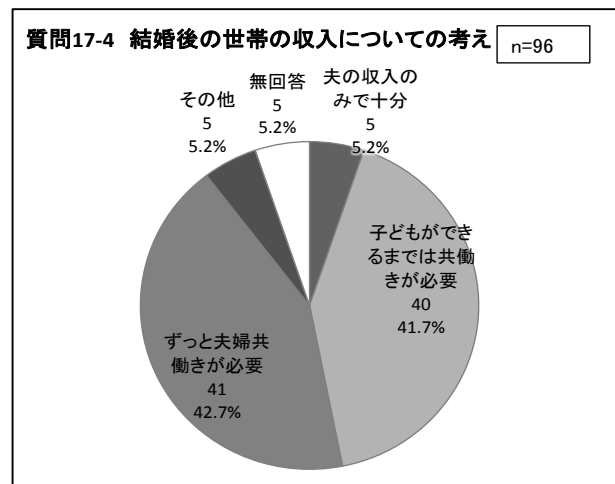
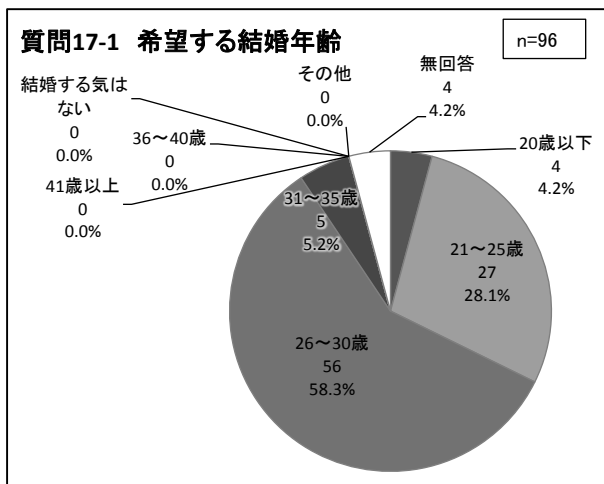
②結婚に対する意識

○希望する結婚年齢としては、「26～30歳」が最も多い。

○結婚後の世帯の収入については、「夫の収入のみで十分」は5.2%であり、「子どもができるまでは共働きが必要」が41.7%、「ずっと共働きが必要」も42.7%となっており、仕事と育児の両立を支援する施策のニーズは多いと考えられる。

○結婚後の生活について不安なことについても、「所得の安定」、「仕事の安定度」等の経済的な理由が多い。

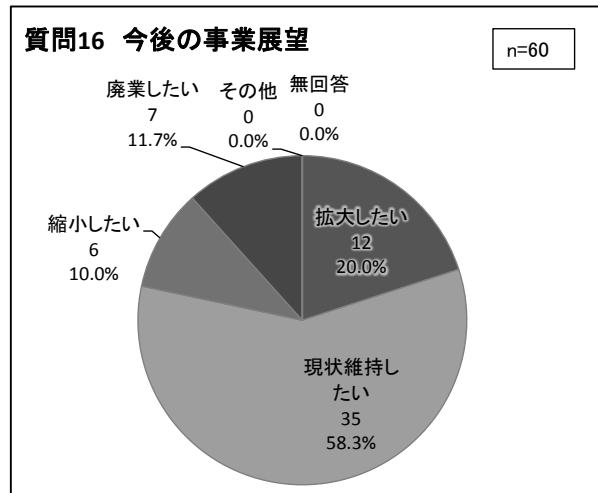
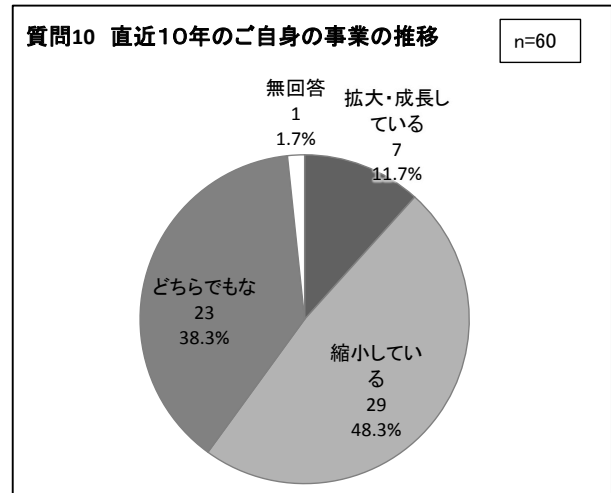
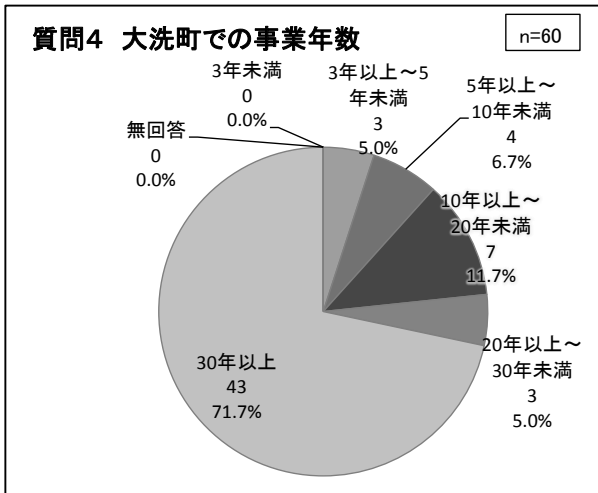
○結婚は難しいと考えている理由としては、出会いの難しさを挙げる意見の他、自身の収入・雇用に関する意見が多い。



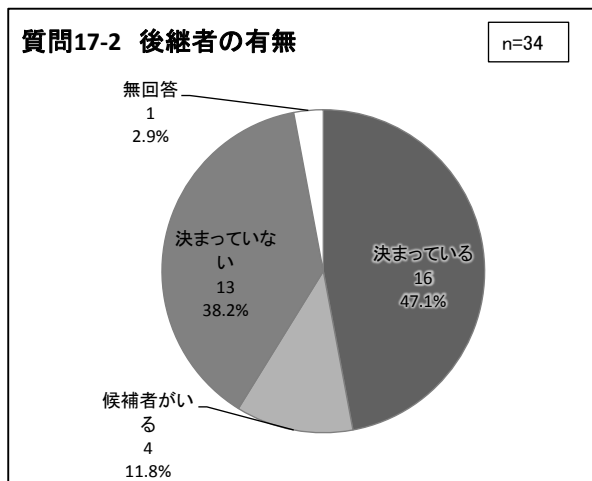
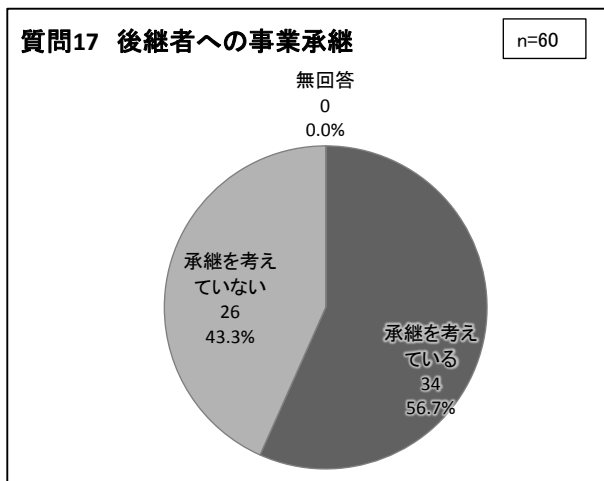
(3) 事業所・事業主

①経営状況

○事業年数をみると、「30年以上」という事業所が71.7%と多いのに対し、「5年未満」は5.0%と少なく、大洗町内での起業・創業は少ない状況となっている。また、事業の推移をみると、「縮小している」が48.3%であり、事業展望や後継者の状況と合わせてみると、全体として町内での事業活動は停滞あるいは縮小の方向にあると考えられる。



②後継者の状況

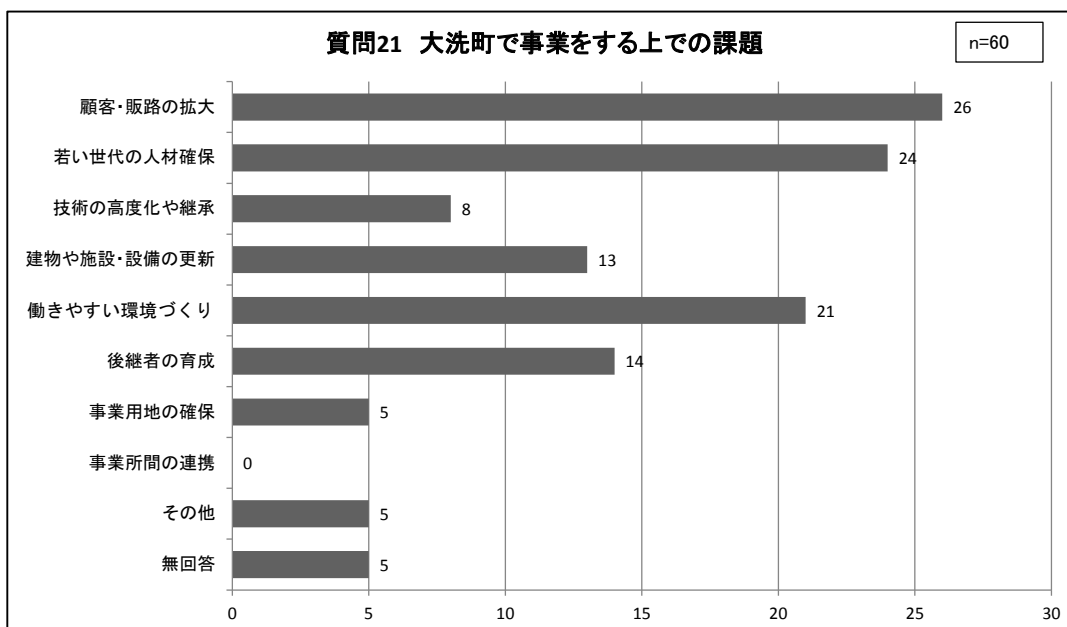
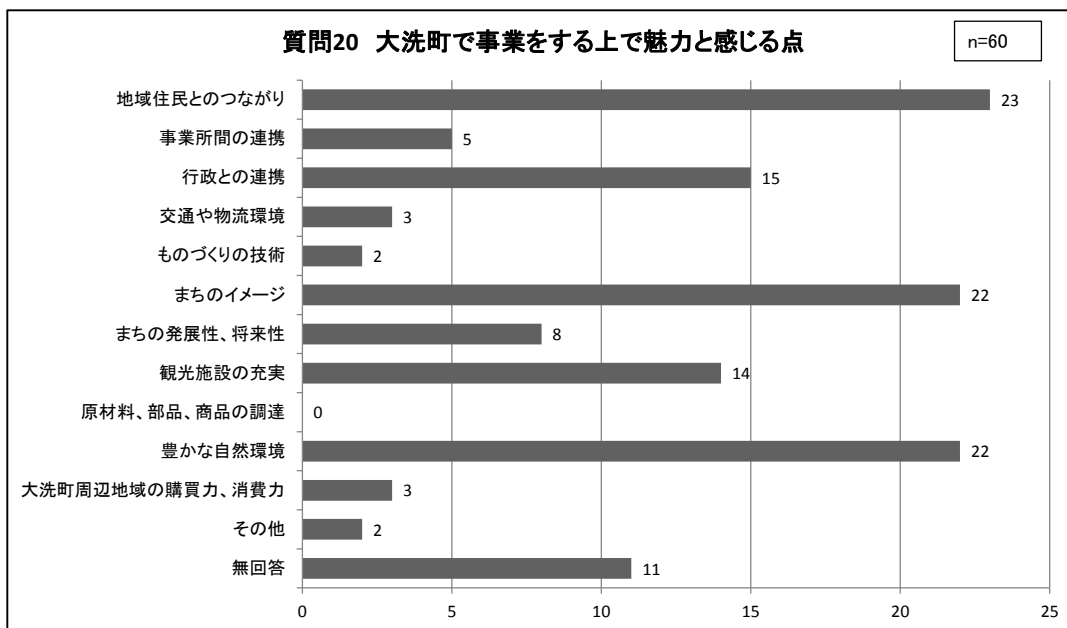


③大洗町での事業について

○大洗で事業を行うにあたっての魅力としては、「地域住民とのつながり」、「豊かな自然環境」といった意見の他、「まちのイメージ」が多く挙げられている。

○一方、事業を行っていく上での課題としては、「顧客・販路の拡大」、「若い世代の人材確保」、「働きやすい環境づくり」等となっている。

○このようなことを考慮すると、「町内事業所の製品・サービスの提供にあたり、大洗町のイメージアップに、町が積極的に関わること」が求められると考えられる。



Ⅱ ヒアリング（グループインタビュー）結果

（１）子育て層

意見の概要	施策への反映事項
<p>【妊娠～子育ての課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産婦人科が近くになく通院の負担が大きい。 ○親族など、いざというときに頼りにできる人がおらず、緊急時に病院に行く方法が不安であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○妊娠・出産期の通院に関する不安が多く、通院手段等の支援に関する施策が必要。
<p>【子育て支援施策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通院等の時に上の子を預けることができなかった。必要な時に短時間預かってもらえる制度があるとよい。 ○予約なしで一時的に預けることができるなど、気軽に利用できるような制度があるとよい。 ○子育て支援センターをもっと開放して欲しい。子どもの交流の場がたくさんあり選択できると良い。 ○ファミリーサポートセンターのような施設があるとよい。 ○東海村のように、毎日支援センターに遊びに行ける環境を充実して欲しい。 ○室内の遊び場がゆっくら健康館くらいしかない。 ○周りに気軽に遊びに行ける場が少なくて家に籠もりがちになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きく「気軽に子どもを預けられる施設」と「子どもの遊び場・交流の場」を求める意見が多い。 ○利用者ニーズを精査し、施設やサービスをより使いやすくする施策が必要。
<p>【幼児教育・保育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園を3年保育にしてほしい。 ○幼稚園に入りたいが2年保育でお迎えも2時と早い。 ○幼稚園と保育園は一体にして欲しい。幼稚園は3年保育にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園を中心に意見が出されており、ニーズを精査し使いやすさの向上を図る施策が必要。
<p>【子育てと就業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てが一段落したら働きたいが、大洗町では土日の仕事が多い。水戸市やひたちなか市に行くことも、子育て中は大変だから悩む。 ○子育てに支障のない時間帯の仕事さえあれば働きたい。 ○働きたいが、保育料が高いから考えてしまう。 ○働きたいが働く場所と保育料を考えるとためらう。 ○経済的に大変なので働きたい。 ○主人の給料を上げて労働時間を短くしてもらえば、2、3人目も期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理由は様々だが働きたいという意向が多い。 ○但し、町内での業種や働く時間等に悩む姿もみられており、就業機会の多様化に関する施策が必要。 ○一方で、収入増加に伴う保育料負担が就業の障害になっており制度検証が必要。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公園の施設が古く、除草等の管理も良くない。 ○ふれあい広場等の子育て世代の交流の場が、毎日あるいは決まった曜日に開催して欲しい。 ○3人目以降の子どもが生まれるとお金がもらえるという制度は必要なのか疑問です。 	<p>—</p>

(2)中学生

意見の概要	施策への反映事項
<p>【人口が減少していることについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢化が進んでおり、観光や祭りも高齢者が担っている感じがする。 ○町内の店等をみると若い人を捜すのが大変。 ○商業や漁業の後継者がいなくなり町が寂しくなる。 ○税収が減り、福祉などの公共サービスができなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少がもたらす影響を理解している中学生もいるが、町民に対し各種の情報を周知する必要がある。
<p>【大洗の魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田舎だけれども、水族館やマリインタワー等の新しい要素もあり、田舎に感じない要素もある。 ○海や水族館は誰からも受け入れられるもの。 ○地域の人が優しい。 ○海外派遣や地引き網、ガルパン等、大洗町でしかできないものもある。 ○町が小さいから、町全体で町民運動会などができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水族館やマリインタワー等を他地域にはない魅力として理解しており、これらを魅力として捉えた施策が必要。 ○また、小さな町であることもメリットとして認識されている。
<p>【大洗町の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大洗鹿島線の本数が少ない上、電車賃が高く不便。 ○道が狭くて分かりづらい。 ○本屋、ファミレス等が少ない。 ○ガルパンで人が来てくれるようになったが、大洗駅周辺が明るくない。魅力づけだけでなく手入れをすることも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通手段、店舗等についての意見が多く、身近なエリアでの生活サービス拠点の確保が必要。
<p>【将来の進路・定住意向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大洗町で仕事をするを考えると職業が限られる。 ○水戸は働く場所が多い。 ○なりたい職業が大洗町にはない。 ○大洗町に残りたい。いることができれば観光地を盛り上げるような仕事がしたい。 ○いろいろなところをみて学んだことを大洗に返したい。 ○進学のため都心に近いところがよい。 ○生活に必要なものがない、働く場所がないなど不便である。 ○両親とも大洗で働いており、同じように働きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○希望する職業の有無が町内就業の選択要因となっている。 ○進学や就業のために一度町を出ることは避けられないが、戻りたくなる施策が必要。
<p>【これからの大洗町について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今あるものを大切にしてくれ、良くなっていくことがよい。 ○にぎやかで、ガルパンだけでなく家族連れなどが遊びに来るような町になって欲しい。 ○自然と都市が調和し若者が住みやすく多くの企業がある町。 ○バスや電車が発達した便利な町。 ○地域の人がお互いを思いやって交流を深めることが必要。 ○祭りや行事がたくさんあって、いろいろなところから人が来るよう、地域のことを伝承する人が必要。 ○若者が働ける企業の誘致や、他県にPRして観光客を呼び、地域が活性化することが必要。 ○町内に就職先があるかどうか、募集しているのか、どんな仕事なのか分からないので、仕事を発信していくことが必要。 ○人材（リーダー）が必要。町民に呼びかける前に、その町民をひっぱってってくれる人が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町の魅力づけに対する意見が多く示されている。 ○地域資源の活用や就業機会の確保・発信等も挙げられており、総合戦略の施策において考慮することが必要。

(3) 若手農業者

意見の概要	施策への反映事項
<p>【農業の現状について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○働けば働くだけ儲かるという意味では農業は魅力がある。 ○機械の大型化等で、以前よりも利益を上げることが難しくなっている。 ○現在の農業でも生活することは可能だが、積極的に継がせようとは思わない。 ○価格のリスクはある。自分で値段を決めることができない。 (自分で単価をつけられるようになると良い) ○大洗町にはまとまった土地がないので、周辺市町村の農地を耕作している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業はやり方次第で儲かる産業として認識されているが、価格決定権がないこと、設備投資の負担等が問題として認識されている。
<p>【農産物の加工について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現状では加工より生産しているほうが良い。 ○加工に取り組むには、設備と人(経費)が必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農産物の加工よりも生産を主とする農業といえる。 ○一方で、観光利用の可能性については理解されており、農業の多面的利用の一つとして検討が必要。
<p>【農業の観光利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業の観光化はあり得る。水田景観の活用、サツマイモ掘り体験等は資源となる。 ○他の観光資源と合わせて1日大洗で滞留させることもできる。 ○東北の市場から農業体験の要望が来たこともあった。 	
<p>【農業振興に必要な施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な支援としては「売り先の情報」。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な施策として、「売り先の情報」が挙げられており、経済的支援の他、販路拡大に関する取り組みが必要。
<p>【新規就農の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規就農は言葉でいうよりも難しい。若い人の定着率は低い。 ○サラリーマンとの生活スタイルと異なることを理解させる必要がある。(時間が自由に使えるという一面もある) 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農の例は多くはないが、実際の難しさを指摘する意見が多い。 ○就農希望者に対しては、それらを理解した上で取り組ませる必要がある。

(4) 若手商店・旅館経営者

意見の概要	
<p>【商業等の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少よりも増える要素がないということ。地元商圈を相手にしている事業は今後困難になる。 ○買い物客の減少により商品在庫を減少せざるを得ないという悪循環になっている。 ○市街地では、建て替えができない住宅も多く人が離れていくに伴い客が減少する。 ○交通インフラの多様化により、客が行ける場所は多様化している。人口減少よりも、海やアンコウ以外に大洗町に行く理由を創出することが必要。 ○宿泊客が減少している。夏のレジャーとして海水浴の人气が下がっているというニュースがあったが実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元のみを顧客としている商業については、厳しい見通しとなっている。 ○要因としては、本町の市街地の特性や交通インフラによる選択の多様性等が挙げられている。 ○また、海水浴離れという傾向も認識されており、新たな魅力づくりが必要。
<p>【雇用の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大洗町の産業は繁忙期と閑散期の差が著しく、雇用が安定しない。 ○外国人研修生受け入れや高齢者雇用に対する補助があるとよい。 ○全体的に人員が不足している感じはある。 ○子どもがいと、土日休みたい、昼間のみ等の要望があり、確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として人手不足を感じている傾向がある。 ○求人を行っても人が集まらないのが現状であり、雇用環境や雇用条件面でのミスマッチがみられるため、雇用促進に関する施策が必要といえる。
<p>【人材確保施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土日の就業がネック。 ○ハローワークで募集しても人が集まらない。 ○以前あった緊急雇用のようなものがあると募集しやすい。 ○経営規模が小規模で、雇用条件が整っていない事業所も多く支援制度が使えないところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状で大洗町での起業・創業事例はほとんどみられない。 ○町内就業の一つの方策として、その可能性について検証する必要がある。
<p>【起業・創業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大洗町では、ロケーションビジネスではなく、生活に密着した事業が創業対象になるのではないか。 ○既存事業からの多角化はあるが、大洗町での事例は少ない。 ○つくばでは創業に関する相談が多いが大洗町では少ない。つくばは人口増など市場が拡大しており魅力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町内事業所の後継者問題は存在しており、事業所活動の動向に注視する必要がある。 ○小規模なM&A事例が増加しているということであり、事業存続のため必要な支援施策の検討が必要。
<p>【後継者・事業継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿泊業は後継者以前に嫁問題がある。 ○40代以上の経営者の多くが、後継者がいないのではないか。 ○最近では小さな会社同士もMAの対象となっており相談は多くなっている。銀行がマッチングをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町内事業所の後継者問題は存在しており、事業所活動の動向に注視する必要がある。 ○小規模なM&A事例が増加しているということであり、事業存続のため必要な支援施策の検討が必要。